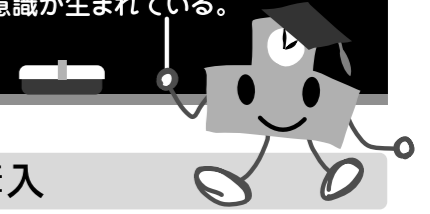


小学校の事例 白石区 川北小学校

机といすにテニスボール足カバーを取り付け、教室を雑音のない静かな環境に。

机といすのあしにテニスボールでつくった足カバーを取り付ける活動を行っている。教室内の雑音はかなり軽減され、「静かにしよう」と児童たちも心がけるようになった。テニスボール購入の資金源となる牛乳パックリサイクルにも目的意識が生まれている。



内容 牛乳パックリサイクルでテニスボールを購入

本校では机といすの8つのあしに、テニスボールでつくった足カバーを取り付ける活動を行っている。2年前、机やいすの動く音がうるさく、授業が聞きづらいという声があがり、ある保護者から紹介されて始まったもの。

切れ目を入れるのは用務員に手伝ってもらっており、現在は3学級で使用している。

足カバーになるテニスボールは、牛乳パックリサイクルの収益金を活用し、NPOから購入している(1箱300個入りで1,000円)。

足カバーのつくり方は、慣れると簡単である。まずテニスボールにドリルで穴を開け、次に庭ばさみで十字の切れ目を入れ、机といすに児童が取り付けている。

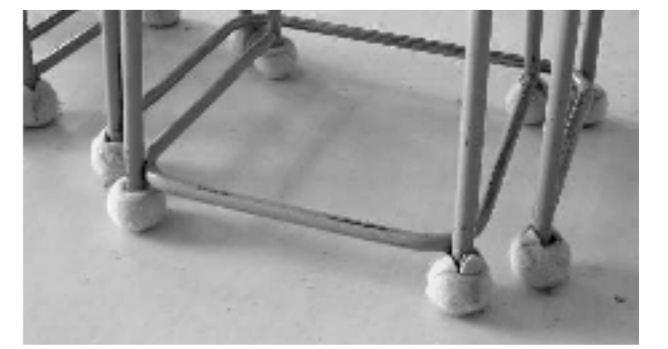


テニスボールでつくった足カバー

今後 児童たちも足カバーの目的や効果を理解

足カバーによって、教室内の雑音はかなり軽減され、児童の間で「静かにしよう」という意識をもつようになった。最初はボールで遊ぶ子もいるのではないかと心配したが、そのようなようすは見られなかった。

児童もテニスボール足カバーの取組の目的を深く理解することができている。牛乳パックリサイクルにも目的意識が生まれ、リサイクルの効果も得られるようになってきている。



足カバーになるテニスボール

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

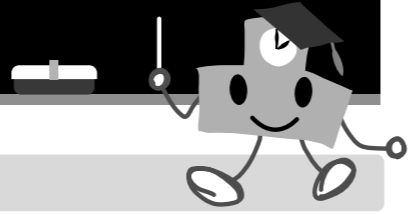
実施校から
メッセージ

テニスボール足カバーの取組は教職員の協力が必要ですが、面倒な手続きはいりません。まずはやってみることがいちばん。今後は費用の面も考え、牛乳パックリサイクルを進めて、全学級が取組めるようにしたいと考えています。

小学校の事例 東区 中沼小学校

児童が自ら調べ作りあげた人形劇でリサイクルを学ぶ。

牛乳パックリサイクル開始に向けて、紙人形劇を使いリサイクルを知る。楽しみながら学ぶことで関心を高め取組をスタートすることに。



内容 牛乳パックリサイクル開始に向けて人形劇

平成22年10月より、牛乳パックのリサイクルをスタートした。実施にあたり、児童会の児童が全校児童にリサイクルの流れを説明するペープサート(紙人形劇)の上演を行った。

作業を行い、ペープサート(紙人形)8体を作成。全校児童に伝えることを重視し、人形の大きさやストーリーをわかりやすく工夫し、何度も検討しながら準備した。鑑賞していた児童からは、実際に牛乳パックが紙人形と一緒に劇中で登場すると、「へえー!こうなるんだね〜」などの声も上がり、新しい気付きが生まれたようだ。楽しみながらリサイクルを学ぶことで関心も高まり、次へのステップになったと感じる。

生活委員会担当の教諭が脚本や劇の指導を行い、子供たちはインターネットで「牛乳パックがどのようなものにリサイクルされるか」や「リサイクルの流れ」について調べ取組んだ。

委員会活動の時間以外にも、中休みや昼休みを使い

今後 自発的な行動につなげる仕掛けづくりを

始まったばかりの牛乳パックリサイクルを継続していくためには、子供たちが自らの発案で行動を起こすための道筋作りを行うことが必要である。

今後は、1年生から6年生までの各教科の学習の中に少しずつ環境に関する項目を位置付けてカリキュラムを作って行く予定だ。毎日の学びの中で、環境問題について体験して実感したり、行動をおこせることを見つけながら取組んでいくことで生活にも根付いていくように考えている。



ペープサート発表の練習風景

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

教員側からの呼びかけで動くのであれば「指示待ち子供」となる可能性が高くなってしまわないかという思いから、「自発的に動くための仕掛けづくり」に力を入れています。活動に向けた動きは始まったばかりですが、じっくりと取組んでいきたいと思っています。